

アゼルバイジャン投資ホールディング(第 3 報)

アゼルバイジャン投資ホールディング(Azerbaijan Investment Holding: AIH)について、2021 年 1 月 18 日及び同年 3 月 9 日付の経済トピックでも紹介しておりますが、今般、アリハノフ CEO に同社の活動内容と今後の展望についてお話を伺いましたので、その概要を以下に紹介します。

1. AIHは、アリエフ大統領の指示を受け2020年8月に設立された、国有企業のガバナンス改善、放漫経営の立て直しを目的とした国有企業の持ち株会社です。シンガポールが1970年代に設立したテマセク(政府保有投資会社)をモデルとして設立されました。現在、従業員数を100名まで増やすことを目指しており、財務・会計・企業コンサルティング経験者等の雇用が進められています。
2. AIH傘下にはSOCAR、アゼルエナジー、アゼルゴールド、バクー国際商業海洋港、アゼルバイジャン航空、アゼルバイジャン国際銀行等当国を代表する国有企業17社が置かれています。現在、このうち8社で監査委員会及び理事会の設置、役員任命がなされ、2021 年中には傘下の全17社において、同プロセスが完了する見込みです。また、各社のガバナンスや経営効率の改善、国際競争力の向上を目指す中で、いずれはこれらの国有企業が一部民営化される可能性もあります。
3. 自分(アリハノフCEO)は、極東での商船事業で日本企業とのビジネス経験があり、日本企業の仕事の質や製品、モラルの高さをよく理解しているので、日本企業がアゼルバイジャンの経済開発に参画することを望んでいます。例えば、AIH傘下のアゼルバイジャン鉄道公社は仏アルストム社と協業実績(車両購入等)がありますが、日本企業ともこのような事業関係を築くことは可能でしょう。また、日本企業がカラバフ地域の復興取組へ参画されることも期待しています。

(以上)